

流域治水の取り組み 流域治水オフィシャルサポーター（その13）

1. 流域治水に関する現地見学会の実施

当社では、河川分野に直接携わっていない技術者を対象に、流域治水への理解を深めてもらう取組として、現地見学会を実施しています。

見学会の企画・運営・案内は河川分野の技術者が担当し、専門的な内容について事例を交えて分かりやすく説明することを目的としています。

当社本社ビルが目黒川（東京都品川区）沿いに位置していることから、身近な河川を題材にできる点も大きなメリットとなっています。

2. 目黒川の概要

目黒川は、世田谷区池尻三丁目において北沢川と烏山川が合流する地点を上流端とし、世田谷区・目黒区を東流し、途中で蛇崩川を合流させた後、品川区東品川一丁目地先で東京湾に注ぐ二級河川です。

目黒川大橋上流部および三支川（北沢川・烏山川・蛇崩川）は暗渠化されており、地上部は緑道として整備・利用されています。

※東京都 HP：<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/river>

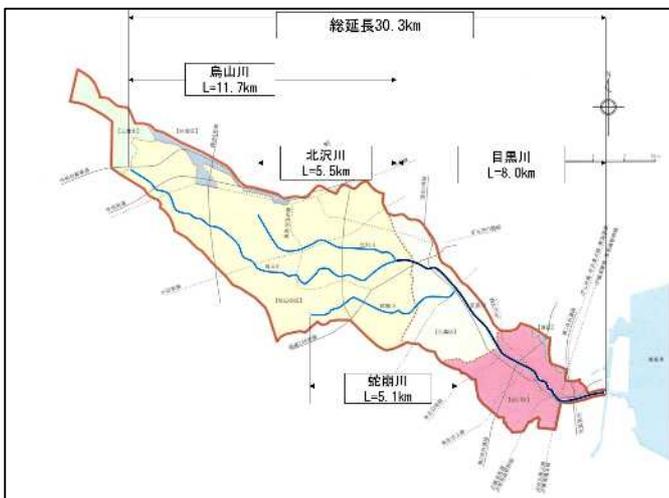


図1 目黒川の概要図（東京都 HP より）

3. 現地見学会の実施

目黒川は桜の名所として広く知られていますが、それだけではない治水機能を理解してもらうため、「荏原調節池」「水位観測所」「土のうステーション」などを見学しました。

見学ルートは約1時間程度で回ることができ、流域治水の考え方を知ってもらうには適切な時間と距離となっています。



写真1 目黒川の写真（東京都 HP より）

4. 現地見学会での気づき

現地見学会では、流域治水に関する施設に加え、防災船着場や湧水の放流についても確認しました。

○防災船着場：災害時において河川舟運が有効に機能するよう、救援・物資輸送等の拠点として整備されていることを確認しました。

○湧水の放流：五反田大橋左岸では、都営新宿線から発生する地下水湧水を河川へ直接放流しており、その放流量は約1,690m³/日となっています。都市部における地下構造物と河川の関係を理解するうえで、貴重な事例であると感じました。

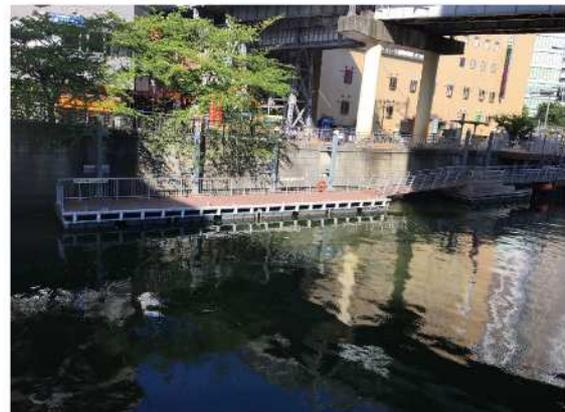


写真2 目黒川の写真（防災船着場）

5. 弊社からの情報提供

弊社では、流域治水に関連する各種業務に幅広く取り組んでいます。加えて、MCC 研究所においても、流域治水や防災・減災に資する技術研究を継続的に実施しています。今後も、実務と研究の両面から技術力の向上を図り、流域治水の推進に貢献する取り組みを一層強化してまいります。技術的なご相談等がございましたら、下記 URL よりお気軽にお問い合わせください。

<https://www.mccnet.co.jp/>